

建設会報 いずも



No.130

2017年

新春号



表紙の言葉



鳥インフルエンザ

えと文 / 渡部良治

この冬は野鳥のウイルス感染が過去最多となり、北海道と青森、新潟両県では養鶏場などでも発生し、殺処分に追われました。

お隣の鳥取県では、昨年11月以降、鳥取市気高町の日光池周辺で採取された野鳥の小ガモの糞からウイルスが検出され、さらに米子市彦名新田の米子水鳥公園では、コハクチョウ2羽から検出されました。

動物園では鳥類の展示や、今年の干支である「酉」にちなんだイベントを中止・変更したところも出ました。

現在検出されているウイルスは、人への感染や、死亡が報告されたH7N9とは異なるようですが、弱った野鳥やフンに触れることは極力避けるなど十分な注意が必要です。



C O N T E N T S



- ▶ 巻頭言／中筋 豊通〔一般社団法人島根県出雲地区建設業協会長〕……1
- ▶ 新年のご挨拶
 - ／柴田 亮〔国土交通省出雲河川事務所長〕……………3
 - ／松浦 洋介〔出雲労働基準監督署長〕……………4
 - ／鬼村 純〔出雲警察署長〕……………5
 - ／石田 弘至〔出雲県土整備事務所長〕……………6
- ▶ 平成28年度優良工事等表彰／表彰一覧……………7
- ▶ 優良工事表彰を受賞して／荒川 定男〔大福工業株〕……………9
 - 川嶋 弥貴〔ヒカワ工業株〕……………10
- ▶ 島根県知事表彰受賞に感謝／山下 安夫〔株山下工務所〕…11
- ▶ 中国管区内警察局長賞を受賞しました……………12
- ▶ 年男の抱負／岩崎 和良〔岩崎建設有〕……………13
 - 金築 邦彦〔株御船組〕……………14
- ▶ 全国建災防大会で知ったこと／加納 悟〔有ナギラ建工〕…15
- ▶ 経営研修会に参加して／日下 雅彦〔クサカ建設株〕……………16
- ▶ インターンシップ体験談……………17
- ▶ 第29回 サラリーマン川柳……………19
- ▶ 研修旅行記／手銭 弘明〔有神門組〕……………21
- ▶ 「どぼじょ」の私が思うこと／加本 雅美〔株フクダ〕……………22
- ▶ 編集後記／山根 強〔有神山根建設〕……………23





「酉・実りの年に、 成すべきことは・・・」

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会
会 長 中 筋 豊 通

平成29年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

今年の干支は「安定する」、「実る」という意味があるといわれる「^{ひのと}酉」です。

厳しい経営状況が続いている地方の建設業としては、「酉」にあやかって、何とか起死回生の一手が打たれ、希望のある安定した建設産業界の構築が進む「実りの年」となるよう、大いに期待したいところであります。

昨年は、イギリスのEU離脱、アメリカ大統領選挙でのドナルド・トランプ氏の選出、韓国の朴大統領のスキャンダルによる大混乱などで、世界中が大きく揺れ動いた年でした。

今年も、トランプ大統領がどう動くか、TPPはどうなるのか、ロシアは、中国は、どう進むのか、更に、フランスの大統領選、ドイツの連邦議会選挙などが続き、結果次第では世界情勢の先行き不透明な状況が続くことも予想されます。

国内では、熊本や鳥取中部での地震、そして北海道、東北の台風上陸による大水害など、全国いたる所で自然災害による大きな被害が発生しました。また、博多駅前では、予期せぬ道路の大陥没が発生し、インフラのメンテナンスにも関心が寄せられました。

温暖化による、地球環境の変化が進む中、地域住民の安全・安心を守る建設産業の、果たすべき役割は大きいものがあります。

ところで、国土交通省では、建設技能労働者の処遇改善に繋がる施策として、技能と経験を「見える化」する就労履歴蓄積システム「キャリアアップシステム」の構築が検討され、いよいよ、今年スタートしようとしています。

建設業協会として、①持続的・安定的に公共事業予算の確保拡大を図ること。②予定価格の適正な設定、低入札価格調査基準及び上限枠の引き上げ。③発注や施工時期の平準化等々、要望活動を進める中、島根県では県債を活用した工事発注の平準化や適正な工期の検討などに取り組んでいただいているところですが、魅力ある建設産業を目指しての「給与・休暇・希望」の新3K実現までには、自らがやらなければならないことが沢山あります。

島根県並びに国土交通省始め、関係各位のご協力を得ながら、本年が建設産業界にとって実りある年となるよう頑張ってお参ります。

出雲地区建設業協会の会員の皆様、今年もよろしくお願いたします。

ありがとうございました。



新年のご挨拶



国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所

所長 柴田 亮

明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。日頃より国土交通行政、とりわけ河川行政の推進にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

斐伊川水系では、いわゆる治水事業の3点セットのうち、志津見ダム、尾原ダム、斐伊川放水路がすでに運用を開始し、洪水時に水位低減効果を発揮しています。引き続き、地域の皆様のご理解を頂きつつ、残る斐伊川本川の堤防整備、大橋川改修及び中海・宍道湖の湖岸堤整備を着実に進捗させ、流域を悩ませ続けてきた水害に対する安全度の向上を図って参ります。

また、近年大きな被害を受けた平成18年洪水から10年以上が経過するなか、昨年、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」を再構築するため、国、県、市が一体となって行う減災のための取組方針をとりまとめました。ハード整備を引き続き着実に進捗させるとともに、想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成や防災教育等のソフト対策を関係者と連携・協力して一体的・計画的に進めて参ります。

地域振興に向けた取り組みも進めて参ります。尾原ダム、志津見ダムの水源地域ビジョンの推進、水辺に賑わいを生み出して持続的な取り組みとして定着させていく「ミズベリ^{えいし}ング縁」の一員としての活動の継続、ガン、ハクチョウ等多くの大型水鳥が飛来する豊かな水辺環境を保全・再生するとともに、観光や農業と連携して地域の活性化を目指す生態系ネットワーク形成の取り組み、こうした様々な取り組みを通じて斐伊川流域の地域振興に関係者と連携して取り組んで参ります。

さて、建設業は地域の安全・安心を守り、経済を支える「砦」です。また、災害時の対応はもちろん、平常時の維持管理も重要であり、そこには地元精通した建設業に携わる皆様の力が不可欠です。昨年11月には、島根県出雲地区建設業協会とともに土木の日記念イベントとして、建設機械の展示、斐伊川放水路バスツアー、測量体験等を通じた建設業の担い手確保の取り組みを実施しました。多くの方にご来場いただき、建設業のイメージアップにもつながったものと思います。こうした取り組みも含め、建設業協会の皆様方には女性技術者の活用、若手技術者の育成などを通じて、地域防災力の向上とともに地域の活力に寄与するご活躍を期待しております。

貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲労働基準監督署
署長 松浦 洋介

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の会員の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、労働基準行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年（平成 28 年 11 月末現在）の当署管内における労働災害の発生状況ですが、年前半には一昨年より増加しておりました災害数も、死亡災害が発生することなく、196 件と昨年同期比 -32 件の減少となっております。

建設業におきましても同様で、昨年（平成 28 年 11 月末現在）35 件と昨年同期比 -4 件の減少となっております。

なお、業種的にみますと、土木や木造建築は減少しておりますが、その他の建築業では、昨年同期比 7 件増加となっております。

災害の型でみますと、35 件中 13 件が墜落・転落災害であり、続いて激突されの 5 件となっております。

このように、建設業における災害の 30% 以上を墜落・転落災害が占める状況は一昨年も同様で、皆様ご承知のように建設業における墜落災害は、一步間違えると大きな障害を残す怪我や死亡災害へつながる要素を多く含んでおります。

当署管内におきましては、昨年（平成 28 年 11 月末現在）死亡災害は、発生しておりませんが、島根労働局管内では 7 名、内建設業で 4 名もの尊い命を失うという、労働災害が発生しております。

このため、会員の皆様方におかれましても、昨年 12 月から年末年始災害防止強調期間として、災害防止に取り組み頂いているところ、年明け早々ではございますが、引き続き労働災害の防止、特に重篤な災害につながる墜落・転落防止にご尽力いただきますよう、改めましてお願い申し上げます。

また、建設業を取り巻く社会情勢も、昨年 6 月閣議決定されました「ニッポン 1 億総活躍プラン」の実現に向けた、「働き方改革」に関連し、雇用吸収力の高い産業として注目を浴びる一方、労働時間削減の問題など課題も多く、大きな変化に差し掛かっております。

しかしながら、建設業は、地域のインフラ整備や住民生活の一役を担う、地場の主要産業であることは周知の事実であり、建設業に従事する労働者が健康で安心して働き続ける環境を整えることが、これらの課題をクリアする足掛かりとなり、出雲をはじめとする島根地域の建設業のさらなる発展に、つながるものと期待しております。

そのためにも、引き続き労働行政に、皆様のより一層のご理解とご支援を、お願い申し上げます。

結びに、貴会の益々のご発展と会員の皆様方のご多幸を心からお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲警察署
署長 鬼村 純

明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また平素から暴力団排除活動をはじめ警察活動各般にわたり、格別のご理解、ご協力を賜っておりますこと厚く御礼申し上げますとともに、昨年は中国管区内警察局長賞を受賞されましたこと改めてお祝い申し上げます。

さて昨年中における島根県内の犯罪情勢は、窃盗事件等の刑法犯認知件数は2年連続減少し、振り込め詐欺等の特殊詐欺の被害件数及び被害額も前年より減少はしているものの、依然として被害金額が2億円前後で推移しており、皆様の体感治安は決して良好とはいえない状況にあります。

暴力団情勢に目を向けてみますと、昨年3月に、警察庁が指定暴力団六代目山口組と神戸山口組が抗争状態にあると認定し、4月には神戸山口組が指定暴力団に指定されました。

このような情勢のもと、島根県警察におきましても、対立抗争集中取締本部を設置し、県内における六代目山口組傘下の三団体について動向を注視し、あらゆる警察活動を通じて情報収集に尽力しているところであります。

出雲警察署管内では、皆様のご協力により長年にわたって、暴力団組事務所の進出を許しておらず、平成23年4月に「島根県暴力団排除条例」が、平成24年4月には「出雲市暴力団排除条例」が施行されたことにより、出雲市民と行政、そして警察が一体となった暴力団排除活動に取り組んでいるところであります。

今後も暴力団のない明るく住みよい社会を維持していくため、皆様方には引き続き

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない

の「暴力団追放三ない運動」に

- 暴力団と交際しない

をプラスした「**暴力団追放三ない運動+1**」の実践をお願い致します。

出雲警察署といたしましても、引き続き協会の皆様方と緊密な連携を図りつつ、神都出雲の治安日本一の実現に向け、署員一同、誠心誠意取り組んで参りますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲県土整備事務所
所長 石田 弘至

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方にはすがすがしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、皆様方には平素より出雲県土整備事務所が取り組んでおります社会基盤の整備や公共施設の維持管理に対しまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

昨年は、4月に熊本、10月にはお隣の鳥取と西日本でも大きな地震が発生し、今や日本全国どこでも大地震の可能性があり、地震に限らず緊急時に備えた対策を着実に進めることの重要性を改めて感じさせられました。

出雲県土整備事務所管内におきましても、建築物、橋梁、河川構造物、下水道などで耐震化や長寿命化を進める一方、緊急時、特にその初動体制の強化を図っていきたくと考えております。そのためには、地元精通した協会員の皆様のご協力が欠かせず、訓練等を通じて迅速かつ的確な対応ができるよう目指してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

また、5月には隣接管内の県道で大きな落石事故がありました。県では、「落石事故再発防止検討委員会」を立ち上げ、落石の原因究明、落石箇所の対策方法の検討及び、点検手法など再発防止に向けた検討を行い、委員会からの提言を踏まえて「落石に係る道路防災計画」を策定しました。今後、この計画に基づき着実に落石対策を実施していきます。

さらにこれまで重点的に進めております交通ネットワークの強化のための矢尾今市線、出雲三刀屋線などの幹線道路整備や低平地の浸水被害解消を目的とする新内藤川水系・十間川・湯谷川などの河川改修、物流の強化のための出雲河下港整備、農業基盤の強化に必要な山王川整備などを強力に推進して圏域の安全・安心の確保、活力の創出につながる社会基盤の充実を図ってまいります。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



平成 28 年度(平成 27 年度完了)
島根県優良工事等知事表彰

◇優秀建設技術者表彰（優良工事知事表彰）

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	(主) 出雲大社線 浜町工区 総合交付金(交通安全1種) 工事	株式会社トガノ建設 代表取締役: 梶野 直宏	
	河川	赤川 防災安全交付金(広域河川) 工事 【2月補正】 白枝本郷橋下部工	大福工業株式会社 代表取締役: 福代 明正	
	港湾 空港	河下港 港湾改修工事(ゼロ国債)	株式会社 中筋組 代表取締役: 中筋 豊通	岡 学
	砂防	柿木尻川 防災安全交付金(通常砂防) 工事(第3期)	有限会社 米江組 代表取締役: 米江 猛	奥原 忍

◇優秀建設技術者表彰（優良業務知事表彰）

部門	業 務 名	会社名／代表者	管理技術者
農林 水産 設計	平成27年度 県単県営地すべり対策事業 出雲第三期地区 地質調査及び機構解析業務(神棚)	島建コンサルタント株式会社 代表取締役: 小田 基明	森山 誠

◇優良下請工事表彰（優良工事知事表彰）

工 事 名	受注業者名／代表者	下請業者名／代表者
河下港 港湾改修工事(ゼロ国債)	株式会社 中筋組 代表取締役: 中筋 豊通	株式会社 金田建設 代表取締役: 宮川 則男



平成 28 年度(平成 27 年度完了)
島根県優良工事等所長表彰

◇優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	(一) 三刀屋佐田線 朝原2工区 総合交付金(改良) 工事 第2期	今岡工業株式会社 代表取締役: 今岡 余一良	伊藤 雅巳
		国道431号 東林木バイパス 新世紀道路(改良) 工事 第2期	株式会社 ダイニ 代表取締役: 安達 稔	宮内 秀敏
		(一) 矢尾今市線 大塚工区 防災安全交付金(改築) 工事 第3期	大福工業株式会社 代表取締役: 福代 明正	岡田 明久
		(一) 斐川上島線 上阿宮工区 防災安全交付金(改築) 工事	ヒカワ工業株式会社 代表取締役: 福田 美樹	川嶋 弥貴

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	(一) 佐田八神線 反辺工区 防災安全交付金（改築）工事 第2期	株式会社今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	糸賀 学
		(主) 斐川一畑大社線 地合工区 防災安全交付金（改築）工事 第3期	株式会社倉橋工務店 代表取締役 倉橋 一喜	大福 里志
	河川	赤川 防災安全交付金（広域河川）工事 国道9号橋下部工 第2期	株式会社中筋組 代表取締役 中筋 豊通	勝部 継治
		午頭川 防災安全交付金（総流防）工事 護岸工	株式会社トガノ建設 代表取締役 柁野 直宏	飯浜 健
	砂防	五反田谷川 防災安全交付金（通常砂防） 工事 第2期	今岡工業株式会社 代表取締役 今岡 余一良	神谷 和宏
農林 水産	農業 土木	平成26年度 農地整備事業（経営体育成型） 出雲西地区 区画整理（6）工事	有限会社ナギラ建工 代表取締役 柳 楽 明	田部 吉修
		平成26年度 水利施設整備事業（排水対策特別型） 入南南地区 排水路（その4）工事	株式会社中筋組 代表取締役 中筋 豊通	奥野 崇
		平成26年度 農地整備事業（経営体育成型） 出雲西地区 道路工事	株式会社ナカサン 代表取締役 藤江 等	馬庭 雅哉
	森林 土木	平成26年度 県単自然災害防止事業 （御幡川）山腹工事	株式会社今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	渡部 直樹

◇優良業務表彰及び優秀技術者表彰

部 門	業 務 名	会社名／代表者	主任技術者又は 管理技術者
地質調査・ 測量・調査	(主) 斐川一畑大社線 地合工区 防災安全交付金（改築）工事 地すべり調査解析業務委託（その3）	島建コンサルタント株式会社 代表取締役 小田 基明	坂田 聖二
		株式会社コスモ建設コンサルタント 代表取締役 高島 俊司	嘉藤 太史
土木設計	高瀬川 防災安全交付金（広域河川）工事 市道1327号 橋梁詳細設計業務委託	株式会社コスモ建設コンサルタント 代表取締役 高島 俊司	嘉藤 太史

◇特別表彰（所長表彰）

表 彰 理 由	会社名／代表者
長年の道路の維持管理業務における功績が顕著であるため	株式会社山崎組 代表取締役 山崎 章弘





優良工事表彰を受賞して

大福工業 株式会社

荒川 定男

この度、平成27年度赤川防災安全交付金（広域河川）工事【2月補正】白枝本郷橋下部工に於いて優良建設工事表彰を頂き、大変光栄に思っております。

この工事は、赤川・塩冶赤川河川改修事業に伴う橋台下部工であり、工事箇所は道路幅員5mの市道に迂回路を設置して施工する工事でありました。

この路線は、国道9号線の東側に隣接しており、朝夕の通勤時間帯は非常に交通量の多い場所でありました。また道路幅員が狭い為、車のすれ違いが難しく渋滞が頻繁に発生していました。

工事着工に先立ち懸案事項としては迂回路、大型工事車両の搬入・搬出が問題となりました。出雲警察署と発注者との協議を綿密に行い検討した結果、迂回路の線形については現道への擦り付けをスムーズに通行する為に、擦り付け区間の延長を長くしました。また夜間照明施設が少なく非常に暗い為舗装幅を最大限に広くして外側線を引き、LED矢印板・点滅灯等で誘導を行うことにしました。

大型工事車両の通行については、市道から作業ヤードまでの離合ができない区間約200mの両側に交通誘導員を配置し、片側交互通行の施工形態は朝夕の通勤時間帯を避けた8時30分～16時30分の間に通行できるようにしました。

この事を地元説明会で地域の皆さんには周知しましたが、近くにある工場及び店舗には直接説明に伺い理解をしていただきました。6月中旬から3月末までの9か月間交通事故、苦情もなく工事を完成でき安心しました。

もう1点問題となったのは工程です。この工事は地盤改良工、場所打杭工を施工してから橋台工2基、橋脚工1基を施工する事になりますが、10月中旬から橋台2基・橋脚1基を同時に施工していかないと工期内に完了する事ができませんでした。

この施工は、土工・鉄筋工・型枠工・足場工・コンクリート打設と下請業者が多い工事があります。コンクリート打設はポンプ車での施工となりますが、この時期は非常に忙しく、コンクリート打設の日を確保して工程を組むこととなりました。工程がずれますと、打設日がいつになるのか不確定であった為、下請業者の担当者に毎日のように電話を掛けていました。悪天候の日も多くなかなか思うように工程が進捗していきませんでした。なんとか無事に工期内に完成できました。

このほかにも様々な問題がありましたが、発注者や協力会社、地元の皆様、会社の方々に多大なご理解とご協力を頂き工事を完成する事ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。皆様本当にありがとうございました。今回の貴重な経験を糧にし、今後も現場の条件に即した対応力を身につけて頑張っていきたいと思っております。





優良工事表彰を受賞して

ヒカワ工業 株式会社

川嶋 弥貴

この度は、平成 27 年度完了(一)斐川上島線 上阿宮工区 防災安全交付金(改築)工事に於いて、優良工事表彰を受賞させていただき誠にありがとうございます。

又この工事の施工の際、ご指導いただきました発注者の島根県出雲県土整備事務所職員の皆様をはじめ地元の皆様、各協力業者の皆様のご協力のおかげだと感謝いたしております。

本工事は、出雲市斐川町阿宮から斐川町三絡へ抜ける一般県道斐川上島線のバイパス部の新設工事でした。この道路は地元の方々に通称『武部越し』といわれる、非常に道幅が狭く又急こう配の道で冬季になると積雪により通行が困難となる道路ですので、早期完成が望まれる道路です。

今回の工事は、河川の護岸工や道路土工・排水構造物工・舗装工・安全施設工等、沢山の工種があり工程管理、施工順序等に苦勞しました。と言うのも、私自身今までは道路工事、特に舗装工事を主に経験してきましたので、河川工事は全くの素人で施工前には不安を感じていました。しかし、上司・同僚の助言や指導または協力業者の方々のアドバイスを戴いたため無事に完了する事が出来ました。また降雨により河川が増水することを恐れていましたが、工事期間中は天候にも恵まれて施工がスムーズに行えたことは非常に幸運であったと思います。

道路部については、現道とバイパス部を接合する為の盛土を施工する際に現道が狭い為バイパス部へ一般車両を迂回させる必要がありました。この時は舗装の施工が出来ない為、路盤での開放となり一般車両の安全確保を重点に置き迂回計画を立てました。

まず、開放時に下層路盤では使用する材料がコンクリート廃材を使用した RC-40 の為異物が混入してタイヤ等に損傷を与える可能性があると考え、M-30 を使用した上層路盤での開放としました。又車両の走行、降雨等により路盤が荒れて碎石が飛散することが予想されたため、アスファルト乳剤を散布し路盤材の飛散防止を行いました。その際も通常はアスファルト乳剤を散布後にタイヤへの付着防止のため養生砂を散布しますが、道路勾配が 6% と急勾配なこともあり、養生砂によるスリップ事故防止の考えから養生砂を散布しなくてもタイヤへの付着が少ないアスファルト乳剤を選定し散布を行いました。

さらに、一般車両の速度を抑制する為あえてバリケードにより道幅を狭くし、一般車両がスピードを出しにくい様に工夫を行いました。

このように、安全にまた早期に工事が完了するよう作業所が一丸となって努力した結果、無事故・無災害で完成することが出来ました。このことは私自身にとって大きな経験となりました。今後この経験を生かしてさらに良い工事ができるように努力をしていこうと思います。





島根県知事表彰に感謝

株式会社 山下工務所

代表取締役 山下 安夫

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

私事ではありますが、この度、建設業協会より推薦をいただき島根県各種功労者として土木部門で知事表彰をいただくことができました。皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

私は、平成6年故梅野前会長の時から建設業協会の理事として初めて参加し、先輩諸兄よりたくさんの事を学ばせて頂きました。以来22年間、今日まで無事に務めさせていただいております。

これも、偏に故梅野前会長さん、中筋会長さんをはじめとして、役員の皆様方、会員の皆様方と、職員の皆様のおかげと深く感謝しております。誠にありがとうございました。

振り返りますと、バブル期は誰もが潤い、協会員もピーク時は約150数社になり協会内も穏やかな時代もありました。

しかし、現在はコンクリートから人へと言われるようになり、公共工事の見直しがなされ減少、現在は会員も半減し建設業界は競争の激化に加え、建設業者の減少、分けて若手労働者の入職者減少など担い手不足で非常に厳しい現状になっています。

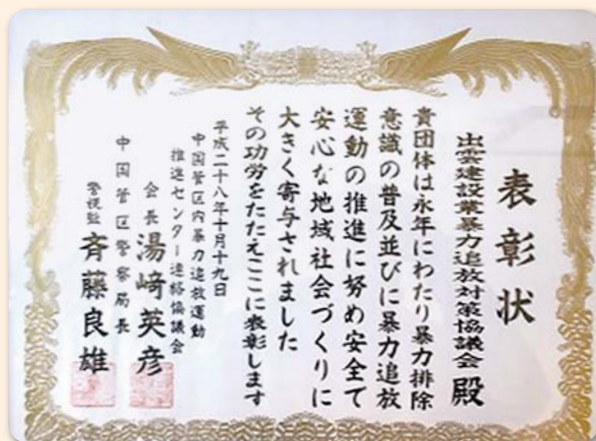
先の鳥取県中部地震で屋根などが壊れ、いまだ修復のできない家屋がたくさんあるようで、個々の家の片付けをボランティアの人に頼り作業している様子がテレビで写し出されていました。これも業者不足、職人不足の影響でしょうか。私は地域の業者として地域に感謝し、皆様の生活が安全で安心して生活できるよう、信頼され、必要とされる業者となれるよう努力、精進して行きたいと思っております。今後とも皆様方の益々のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

今年は酉年、商売人にとって、より実りの多い一年となる予感のある年。またある程度の成果が得られる、区切りの年になるようです。酉年の人らしい直観力と行動力を見習い、自身がより積極的に活動できる酉年にしたいと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、受賞のお礼と合わせ新年のご挨拶とさせていただきます。

中国管内警察局長賞を受賞しました

出雲建設業暴力追放対策協議会（会長 中筋豊通）は、建設業に係わるあらゆる暴力行為を排除し、建設業の健全な発展と公共の福祉の増進に寄与することを目的として設立から三十有余年の間、建設工事に係る暴力追放活動を推進してきたことに対して、平成28年9月19日 暴力追放功労団体として中国管内警察局長賞を受賞。翌9月20日 出雲警察署において行われた伝達式において、鬼村出雲警察署長から中筋会長へ賞状と記念の盾が授与されました。





年男の抱負

岩崎建設 有限会社
代表取締役 岩崎 和良



新年あけましておめでとうございます。

平成29年が始まりました。本年の干支である丁酉には「果実が極限まで熟した状態を表す」由来から人生を考えるのに向いた年の意味があり、本年5度目の年男を迎える私にとって人生の大きな節目である還暦の由来とも共通するところがあると感じております。

昨年を振り返りますと、熊本地震、鳥取県中部地震、台風災害、糸魚川市大規模火災等多くの大規模災害が近年同様多発し、行政はもとより我々建設業関係者においても「より堅固で災害に強いまちづくり」の必要性を痛感する年でもありました。

地方経済の落ち込みと連動して地元建設業界も長い低迷期が続いている現状ですが、我々地元建設業者の理念である「民間投資を含めた地域に必要な社会基盤・社会資本づくりと維持管理を担う主要産業」である事の存在意義を原点回帰し、行動する年にしたいと思います。

出雲地区建設業協会の益々の発展、会員企業の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。



年男の抱負

株式会社 御船組
代表取締役 金築 邦彦



新年あけましておめでとうございます。

希望に満ちた新年をご家族、社員の皆様揃ってお迎えのこととお喜び申し上げます。

2017年「丁酉」に無事に還暦を迎えることができた私は1980年に御船組に入社、早いもので37年目を迎えようとしております。

大社高校時代、どうしても建築のものづくりに携わりたく、建築の大学に進み卒業と同時に御船組に入社しました。当時は御船弘社長、厳しくかつ優しく技術者として人として育てて頂きました。そのことが現場管理者、営業職、そして今の経営者としての道に大きな指針に成っております。

さて、5年前に起こった東日本大震災の復興もまだままならぬ中発生した熊本や鳥取の大地震の被害には目に余るものがあり、我々が携わる建物が一瞬にして壊れ人の命を左右する重大な責務があるものだと改めて考えさせられました。

これからの企業の事業性評価は知的資産が重要になるといわれております。地域の業者が揃って人材育成、技術力と技能の向上を推進することによって有事の時に安心安全な街づくりが出来ると思います。微力ながら協会の一員としてお役に立てるよう尽力したいと思っております。

「古事記」の一場面でお隠れになった天照大神を外に出す為に廻りでどんちゃん騒ぎをした神様たち。そこに鳴き声を上げて参加したのが鶏。その功績から神鶏と呼ばれ、太陽の神を呼ぶ力が有るとされるようです。

今年も皆様に明るい太陽の力が降り注ぎ、たくさんの幸せがとり込めます様お祈り申し上げます。





全国建災防大会(愛知県)で知ったこと

安全委員会

加納 悟〔有ナギラ建工〕



私たち安全委員会は、昨年9月29・30日の両日愛知県の名古屋国際会場で開催された「第53回全国建設業労働災害防止大会」に参加しました。大会は両日共に、快晴に恵まれ9月下旬とは思えない夏を思わせる暑さとなりました。出雲の地を離れる時は出雲空港上空が悪天候の為、羽田便等も待機中と離発着が出来ない状況でした。結局、名古屋便は3時間遅れで離陸しましたが小牧空港に着陸できるのか大変心配しました。けれど、名古屋上空は天候も安定しており、飛行機が遅れたために観る事の出来ないはずの名古屋周辺の夜景を小さな窓から楽しむことができました。

開会式では、来賓挨拶として、厚生労働大臣、国土交通大臣の挨拶、そして地元愛知県知事、市長、建災防愛知県支部長の歓迎の言葉がありました。その後、安全衛生表彰、顕彰があり、皆様のおかげにより私も立派な盾を頂くことができ大変にありがとうございました。

当日は、「島耕作から見る日本の未来像」と題して漫画家の弘兼憲史さんの講演を聞きました。私も幾つか著書を読んだこともありますが、実際に話を聞くことは初めてで大変興味深いお話でした。

二日目は、専門部会ごとの発表があり、私は土木部会で成豊建設㈱の「危険箇所！見た目で感じるために」の発表を聞きました。この発表は北海道新幹線工事の関連のトンネル工事で実施された現場における安全衛生活動についての内容で、トンネル作業は同じ作業の繰り返しの為、経験者も多く、慣れからくる「危険軽視」によりベテランの長所が短所となる場合があるとのことでした。これは土木・建築工事の現場でも言えることだと共感しました。他にも、いろんな手作りのアイデアで安全施設等を製作しておられ、さまざまな取組を実施されていると思いました。

この愛知県で開催された全国大会で感じたことは、「日本は広い・建設工事現場も多種多様・日々現場作業環境は変化する、まだまだ学ぶことが・・・」と思いました。その厳しい現場環境の中で、百選練磨の現場所長と各専門工事業者のプロフェッショナルの二人三脚で安全な作業環境の実現の重要性！を改めて痛感しました。そして、会場近くにあった創業明治六年当時より継ぎ足されている秘伝のたれと職人が備長炭で焼いたこだわりの鰻料理「ひつまぶし」の味はとても言葉では伝えられない、笑顔でしか表現できない大切な本物の味を知る事ができました。その代わり、かなり我慢が必要です！

「安全は出雲から」





経営研修会に参加して



経営改善研究委員会

日下 雅彦 [クサカ建設(株)]

平成28年度の経営研修会は、島根労働局委託事業として株式会社社長室様と出雲地区建設業協会の共催で行われました。今回は「雇用管理改善啓発セミナー」として、「1. 人材確保のための雇用管理改善促進」「2. 島根県建設業の現状」「3. 建設分野に関する助成金」「4. 建設分野における雇用環境の現状と課題」の4つの内容で講演がありました。

まず、誰もが感じていることですが、「建設分野の人材確保が重要課題になっているにも関わらず、建設事業所の人材の採用・定着は厳しい状況にあり、特に若年層の採用・定着を促進し、介護・育児による離職を予防するためには、賃金等の処遇の改善や休日・労働時間の改善、更には建設業のイメージアップが必要とされている」ということでした。また、「魅力ある職場づくり」をするためには「評価・処遇制度」「研修体系制度」「健康づくり制度」「休暇・労働時間制度」「業務管理・組織管理・人間管理制度」「福利厚生制度」など労働環境の整備、職業能力の開発、福祉の増進等の雇用管理を改善する必要があるとの説明がありました。これを全部やるのは大変ですが、雇用管理アドバイザーの派遣等による相談支援もあり、出来るところから改善していくことが大切であると思います。

では、働く人が会社に対して非常に重視しているポイントは何か？というところ、1位 休暇の取りやすさ(42.8%)、2位 労働時間の適正さ(38.3%)、3位 メンタルヘルス不調者の少なさ(31.0%) (日本経済新聞社「人を活かす会社2015」ランキングより)だそうです。全産業のデータですが、単に賃金だけの問題ではなく働く環境や社内の制度などが重視されていることが分かりました。

それでは、島根県内の建設業の雇用の現状は？というところ、2010年の就業状況は50歳以上が51.3%で半数以上、逆に30歳未満は10.8%と低い状況で、若年層の早期離職率も高いそうです。県土木総務課建設産業対策室では、魅力発信・イメージアップ対策としてFacebookや県政重点広報制度(広報番組)、しまね建設女子魅力向上委員会などによる情報発信や、人材確保・育成対策として支援事業を行なっておられます。その他、雇用に関する助成金制度などもあり知っていれば役に立つ情報などの紹介がありました。

今後は厳しい雇用環境を改善し、建設業が魅力ある職場となるよう皆で努力していく必要性を感じた研修会でした。

インターンシップ事業に 協力しています



当出雲地区建設業協会では、毎年出雲市内にある出雲農林高等学校の生徒をインターンシップ（現場実習）事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。

インターンシップ 体験談



島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 梶野 龍一

今回のインターンシップでは、中筋組さんにお世話になり、現場で実際に測量を行ったり、実際の現場を見学させていただき、色々なことが学べた良い機会になったと思います。

現場での作業では、レベルやトータルステーション等を使用した測量をさせてもらったり、高速道路やトンネルの復旧工事を行っている現場へ行き、現場の現在の状況等の説明などを聞きました。普段、実際の工事現場などへは行くことがないので、とても貴重な体験になったと思います。また、今回行かせていただいた現場は、斐伊川の堤防の工事でしたが、インターンシップ期間はまだ工事が再開されておらず、何かを体験するという形ではなく、工事を始めるにあたっての注意や現場での安全確認などについてのお話を聞かせてもらいました。工事が安全第一で行えるようにするためのお話でしたが、普段の授業では学習しないような内容だったので、このインターン

シップに来させてもらったことで分かったこともたくさんあり勉強になりました。

一週間という短い期間ではありましたが、現場での測量体験や工事現場の見学、安全に対する配慮など、会社や現場でないと分からなかったことが数多くあり、とても充実した一週間となりました。

最初は戸惑うことも多かったのですが、現場の従業員の皆さんより親切に測量のやり方なども教えていただいたので、とても分かり易く測量が出来たと思います。

このインターンシップで学習したことを、これからの学校生活に活かしていけるようにしなければと感じた貴重な一週間でした。ありがとうございました。



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科 2年 田中 こはる

10月17日～10月21日までの5日間のインターンシップを終えて、インターンシップでしかできないようなことをたくさん経験することができました。

工事中の現場をととても近い距離で見せていただいたり、実際に現場での作業を手伝わせてもらったり、普段の授業では経験できないようなことを体験することができ、これからの生活やいろいろなところにその経験が役立つ日がくると思いました。

インターンシップの5日間「明るいあいさつ」「話を聞く態度」「積極的な行動」を心がけて取り組みました。3日目に行った現場の担当者の方が「結局この仕事で大切なことはコミュニケーション能力だ」と言っておられました。現場ではたくさんの業者の方が作業をしておられ、きちんとコミュニケーションがとれないと事故や怪我につながります。専門的な知識を身に付けることも必要だけど、コミュニケーション能力を高めることも必要だと思いました。私は人とコミュニケーションをとるのがあまり得意ではないので、今のうちから人との話し方や接し方について考えていきたいと思いました。

私は5日間全て違う現場に体験に行かせていただきました。街の中での工事は近隣住民の方々へとても配慮がされており、朝礼をしてその日の作業内容や注意事項を確認し合い、事故や怪我防止に取り組んでおられたり、実際に現場に行ってみてわかったことがたくさんありました。

5日間たくさんの方々に関わり、たくさんの方々にお世話になりました。とても貴重な経験をさせていただき自分にとってとてもプラスになったと思います。ありがとうございました。

第29回

サラリーマン川柳

ベスト10

第一生命保険株式会社では、例年サラリーマン川柳コンクールを実施し、サラリーマンはもとより、OLや主婦、学生など誰でも参加できる「サラリーマン川柳コンクール」の作品を受け付けております。

(一社) 島根県出雲地区建設業協会では、日頃仕事に追われ、多忙な毎日を過ごされている会員の皆様の気分転換の一助になれば、との思いから2011年の建設会報に掲載したところ、思いのほか好評を博したところであります。

そのため、昨年実施された第29回コンクールの結果を今回も掲載することに致しました。皆様、どうかひと時の間仕事から離れて、このページをご覧ください。

1位

元自衛官

退職金
もらった瞬間
妻ドローン

2位

川享

じいちゃんが
建てても孫は
ばあちゃんち

3位

マイナ

キミだけは
オレのものだよ
マイナンバー

4位

娘来て
「誰もいないの？」
オレいるよ

チャッピー

5位

福沢を
崩した途端
去る野口

サイの京子

6位

カーナビよ
見放さないで
周辺で

トラ吉ジイジ

7位

決めるのは
いつも現場に
いない人

七色とうがらし

8位

妻が見る
「きょうの料理」
明日もです

グルメ老

9位

ラインより
心に響く
置手紙

豆電球

10位

愛犬も
家族の番付
知っている

ワンワンマン



第29回 第一生命
サラリーマン川柳コンクールより



研修旅行記



経営改善研究委員会

手銭 弘明〔宍神門組〕

今年の研修旅行は、9月9日から9月11日の二泊三日の旅程で、貸切バスと新幹線を乗り継いで、長崎・福岡方面へと向かいました。まず初日は、長崎県佐世保市にあるハウステンボスへ行きました。異国情緒溢れる長崎方面への旅らしく、オランダを中心としたヨーロッパの街並みを再現された広大な敷地を散策しました。食欲旺盛な我々としては、街並み見物もそこそこに、ご当地グルメの佐世保バーガーも堪能せねばと店に入りました。

見学終了後、長崎市へ貸切バスで向かいました。坂の町長崎の稲佐山を登った(バスで)、夜景のすばらしいホテルに到着し、その後、長崎名物卓袱料理を囲んでの懇親会で交流を深めました。もう満腹だと口ぐちに語りながら、二次会へとなだれ込み、仕上げは長崎皿うどんを押し込み、夜景もそこそこに就寝しました。

翌日は、今回のメイン目的地であります、世界遺産の軍艦島へ向かいました。長崎の港からフェリーに乗船し、もとは島の住人であったガイドさんの味のある解説を聞きながら、島へと向かいました。途中、百年もの長きに亘り稼働している大型クレーンを船上から眺め、驚嘆させられました。そうこうするうちに、まさしく軍艦と見紛う(戦時中は本当に戦艦と間違えたらしい)軍艦島へ上陸です。上陸した第一声は、廃墟・もぬけのから・誰もいない・つわものどもが夢のあとというところでしょうか。石炭産業で日本の近代化を下支えしたこの島での生活は、当時大変にぎやかなもので、いち早くテレビ・洗濯機・冷蔵庫が普及したそうです。時代の趨勢とともに朽ち果て、今の今まで手付かず状態に放置された結果、世界遺産となりました。地元タクシーの運転手さんが、行ってもなにもないと哀愁めいた、まるで出雲人のような発言が耳に残りました。百年現役で稼働するクレーンと時代の流れから置き去られたのち世界遺産となった島、対象的で感慨深いものがありました。

昼は、中華街の一角で中国コース料理の昼食をとり、幕末の志士たちと交流があったトーマスグラバーの「旧グラバー住宅」のあるグラバー園の見学でした。眼下に見下ろす長崎は、まさしく日本近代化の窓口でした。

その後、貸切バスにて博多へ向かい、豪華ホテルにて宿泊した翌朝、天神さんの総本山大宰府天満宮へお参りし、出雲への帰途につきました。笑顔で今を一生懸命働く、新人バスガイドさん、ありがとう。終わりにりましたが、旅のお世話頂いた関係各位に心より感謝申し上げます。





「どぼじょ」の私が思うこと



株式会社 フクダ

加本 雅美

ここ最近、県内の高校や高等専門学校の土木・建築関係の学科において、女性の占める割合が多くなってきたと聞き、とても嬉しく感じています。

私はしまね建設産業イメージアップ女子会の一員として、様々な活動をさせていただいています。この女子会は平成25年度、「建設産業イメージアップカレンダー2014」を発行するために、主に島根県東部の女性技術者が集まり意見を出し合ったのがきっかけでその活動をスタートさせました。翌年にはさらにメンバーを加え「しまね建設産業イメージアップ女子会」として再結成し、女性の意見を随所に取り入れた「建設産業イメージアップカレンダー2015」を発行しました。月に一度集まって、カレンダー制作について話し合いをすることが活動の主な目的でしたが、女性技術者の横の繋がりを広げることも、女子会としての活動を行う意味に繋がっていたと思います。昨年度からはカレンダー制作だけではなく、女子会、建設業協会、松江高専、島根県が一体となって結成した「しまね建設女子魅力向上委員会」を作り、色々な方面からの力を借りて、更にその活動の幅を広げてきました。就職イベントに参加して島根県内の建設業界で働きたいと考えている方々に様々なアドバイスを行ったり、県内女性技術者の交流の場を作るため、女子会主催の女性交流会を開催しています。料理教室やアロマ教室など、女性が興味を持ちやすいテーマを設定し、初対面でも話が弾むよう工夫しました。この交流会に参加して横の繋がりが広がった、と参加された方々には喜んでいただいています。

私は普段、土木技術者として働いています。建設業に携わる女性が増えた、と言われますがまだまだ少ないと感じています。現場で発注者、作業員の方で女性に会うことはほとんどありませんが、女性が少ないということでもいい事もあります。その中で1番はすぐに覚えてもらえることです。また、男性に比べて女性の方が話しやすい、ということだと思いますが、現場周辺の方や子供達に声をかけられることがよくあります。その時には工事のことや気になる事がないか等、色々聞くようにしています。普通に工事をしていただければわからなかった地元のことも知ることができ、とても助かっています。

光栄なことに、女子会の活動が新聞やテレビなど、様々なところで取り上げて頂けるようになりました。それは珍しさの裏返しなのかもしれません。業界全体でみるとまだまだ女性の割合は高くありません。矛盾しているようですが、この業界で女性が活躍することが当たり前になって、私達の活動が必要なくなるのが、女子会の活動の最終的な目標だと思っています。

今後も土木技術者として日々精進し、また少しでも多くの方々に建設業に興味を持っていただけるよう、女子会の活動も続けていきたいと思っています。





編 集 後 記

昨年は出雲の地に於いては大きな災害もなく平穏な一年でありました。

しかし、国内では熊本県地震、鳥取県中部地震、北海道の台風や九州での記録的な豪雨などの大きな自然災害が各地で発生し沢山の方が犠牲になられ、防災に関して不安が広がる年でした。また、県西部では落石が車に当り女子大生が死亡する痛ましい事故がありました。

私の住む地域は海岸部で海と急斜面の山に挟まれたような場所が多く、昨年も落石や崩土撤去など災害応急作業に数回出動しました。そのような現場を見て「もし人が歩いていたら……」と思うと本当に事故が無くて良かったと思うと同時に決して他所の事ではないといつも感じます。昔からすればインフラ整備が進み格段に災害に強い地域になっていると思います。しかし、山の荒廃やシカなどの害獣により法面が浸食した所など危険な場所も多くあります。また、自然環境の変化によりゲリラ豪雨など自然の猛威が襲ってくることも想定されます。まずは地域の住民が防災意識を持ち有事に備えることが大事ではありますが、高齢化や過疎化による人口減少で地域防災力の低下が問題視されています。このような中、私たち地域における建設業の役割や期待は益々大きくなっていると思います。人材や機械の確保など難しい問題がありますが地域の安全、安心を守るのは建設業であるという使命感を持って今後とも地域に貢献しなければいけないと思います。

建設業が疲弊すれば地域の安全も守れません。地方建設業が元気になるような施策を願います。

経営改善研究委員会 副委員長 山根 強〔有山根建設〕

編集・発行人 一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会
経営改善研究委員会